

<p>I. パウロは、キリストの天の務めと協力し、人々を牧養して、キリストのからだを建造することの模範でした。 ピリピ 3:17 兄弟たちよ、共に私に倣う者になりなさい。また、あなたがたが私たちを模範としているのと同じような歩みをする人たちに、注意深く目をとめなさい。Ⅱテサ 3:9 それは、私たちにその権利がないからではありません。あなたがたが私たちに倣うようにと、私たちがあなたがたに自分自身を模範として提供するためです。エペソ 4:16 この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わせられ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです。</p>	
<p>Ⅱ. 使徒たちは、彼らの広めた喜ばしい訪れの模範でした—「私たちがあなたがたの間で、あなたがたのためにどのような者であったかは、あなたがたがよく知っているとおりです」:</p>	<p>A. 召会の中で、最も重要なものは人です。人が方法であり、人が主の働きです。あなたが何であるかが、あなたが何を行なうかです。 ヨハネ6:57 生ける父が私を遣わされ、私が父のゆえに生きているように、私を食べる者も、私のゆえに生きる。 マタイ12:33 木を良いとするなら、その実も良いとし、木を腐ったものとするなら、その実も腐ったものとしなさい。木はその実によって知られるのである。</p> <p>B. 私たちは使徒たちの模範に従い、働きよりも命に注意を払う必要があります。 ヨハネ12:24 まことに、まことに、私はあなたがたに言う。一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それは一粒のままである。しかし、それが死んだなら、多くの実を結ぶ。 Ⅱコリ4:12 こうして、死は私たちの中で働き、命はあなたがたの中で働くのです。</p>
<p>Ⅲ. パウロは信者たちの模範でした。彼はキリストのからだの建造のために、霊の中でキリストを生き、キリストをその霊として供給しました: Ⅰテモ1:16 しかし、私があわれみを受けたのは、罪人のかしらである私において、イエス・キリストが彼の辛抱強さの限りを展覧して、これから彼を信じて永遠の命へと至る人たちへの模範とするためです。</p>	<p>A. 主は、パウロに現れて、パウロが主を見た事と、主がパウロに現そうとしている事について、パウロを奉仕者、証し人となりました。使徒1:8 しかし、聖霊があなたがたの上に臨む時、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムにおいても、ユダヤ全土とサマリアにおいても、また地の果てまでも、私の証し人となる」。23:11 ところがその夜、主はパウロのそばに立って言われた、「勇気を出しなさい。あなたはエルサレムで私について重々しく証したのと同じように、ローマでも証ししなければならぬからだ」。</p> <p>B. パウロはキリストをすべてとしました。すなわち、彼の生活、模範、目標、秘訣としました。ピリピ1:20 そこで、私の切なる期待と希望は、私がどんな事にも恥じることなく、かえっていつものように、あらゆる事で大胆になって、生きるにも死ぬにも、今なおキリストが、私の体において大きく表現されることです。3:13 兄弟たちよ、私はまだ自分自身、捕らえたとは思っていません。ただ一つの事、すなわち、後ろにあるものを忘れて、前にあるものに向かって体を伸ばしつつ、3:14 キリスト・イエスの中で私を上召してくださった神の賞を得るために、目標に向かって追い求めています。4:11・・・私はどんな境遇でも、満ち足りることを学んだからです。4:12 私は卑しくなる道を知り、また豊かになる道も知っています。あらゆる事において、またいっさいの事柄において、私は飽くことにも飢えることにも、豊かであることにも乏しくあることにも、秘訣を学びました。</p> <p>C. パウロは霊によって生き、霊によって歩き、その霊へとまき、その霊を供給して、自分の霊の中で生活し奉仕する霊の人となりました。 ガラ5:16 しかし私は言います。霊によって歩きなさい。そうすればあなたがたは、決して肉の欲を満たすことはありません。Ⅱコリ3:6 神はまた私たちを新しい契約の奉仕者として、資格づけてくださいました。それは、文字ではなく、霊の奉仕者です。なぜなら、文字は人を殺しますが、その霊は人に命を与えるからです。</p> <p>D. パウロは新契約の務めの中で、すなわち、その霊の務め、義とする務め、和解の務めの中で、神を注入され、神を輝かし出しました。 Ⅱコリ3:18 しかし、私たちはみな、主の栄光をおおいのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。5:20 ですから、私たちはキリストのために大使であり、いわば神が私たちを通して、あなたがたに懇請しておられるのです。私たちはキリストに代わって、あなたがたに懇願します。神に和解させられなさい。</p> <p>E. パウロが生活し、すべての事を行なったのは、からだの中で、からだを通して、からだのためでした。 Ⅱコリ12:14 子供は親のために蓄える必要はなく、親が子供のために蓄えるべきです。15 しかし、私はあなたがたの魂のために、大いに喜んで費やし、自分自身を使い尽くしましょう。エペソ4:12 それは、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるためであり、</p>
<p>Ⅳ. 人を牧養し、人をはぐくみ養う最上の方法は、彼らに正しい模範を与えることです。パウロは自分自身がキリストを生きることによって、彼の霊の子供たちを養いました:</p>	<p>A. 使徒たちは福音を宣べ伝えただけでなく、福音を生きました。彼らが福音を供給したのは、言葉だけによったのではなく、神の力を展覧する生活、すなわち、聖霊の中にある、信仰の確信の中にある生活によってもありました。Ⅰテサ1:5 なぜなら、私たちの福音があなたがたの所へ伝えられて行ったのは、言だけによったのではなく、力と聖霊と大いなる確信ともよったからです。私たちがあなたがたの間で、あなたがたのためにどのような者であったかは、あなたがたがよく知っているとおりです。</p> <p>B. テサロニケの聖徒たちは使徒たちに倣う者となりました。このことは彼らを導いて、主に従わせ、主を彼らの模範とさせ、こうして彼らを他のすべての信者の模範とならせました。 Ⅰテサ1:6 そしてあなたがたは、大きな患難の中で、聖霊の喜びをもって言を受け入れ、私たちにも主にも倣う者となり、7 マケドニアとアカヤにおいて、信じる者すべての模範となりました。</p> <p>C. 使徒パウロは、使徒たちが信者たちの所へ入って行ったことを繰り返し強調しました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 使徒たちは苦闘しながら、神の大胆さの中でテサロニケ人に福音を語っていました。Ⅰテサ2:2 あなたがたが承知しているとおりで、私たちは以前、ピリピで苦しめられ、辱められたのですが、私たちの神にあって大胆になり、激しい苦闘のうちに、神の福音をあなたがたに語りました。 2. 使徒たちには、欺き、汚れ、悪知恵がありませんでした。Ⅰテサ2:3 私たちの勧めは、欺きや汚れから出たのではなく、悪知恵によるのでもありません。 3. 使徒たちは、まず神によってテストされ、良しと認められ、それから神によって福音を託されました。このゆえに、彼らの語りかけ、福音の宣べ伝えは、自分自身から出て人を喜ばせるものではなく、神から出て神を喜ばせるものでした。神は絶えず彼らの心を吟味し、調べ、テストしました。Ⅰテサ2:4 むしろ、私たちは神によって良しと認められ、福音を託された者なので、人を喜ばせようとしてではなく、私たちの心を吟味される神を喜ばせようとして語るのです。

<p>これが示していることは、福音を初信者たちの中へと注入することに於いて、使徒たちの生活様式が大きな役割を果たしたということです。<u>Ⅰテサ1:9</u> なぜなら、彼ら自身が、私たちのことを言い広めているからです。すなわち、私たちがどのようにあなたが行ったのか、また、あなたがどのように偶像から神に向きを変えて、生けるまことの神に仕えるようになったのか、</p>	<p>4. 使徒たちは決してへつらいの言を使ったこともなく、口実をもうけてむさぼったこともありませんでした： <u>Ⅰテサ2:5</u> なぜなら、あなたがたが知っているとおりに、私たちはどんな時にも、へつらいの言を使ったこともないし、口実をもうけてむさぼったこともないからです。神がその証人です。</p>	<p>a. 口実をもうけてむさぼることは、神の言を売り物にしたり、神の言に混ぜ物をしたりすることです。<u>Ⅱコリ2:17</u> 私たちは多くの者のように、利益のために神の言に混ぜ物をするようなことをしないで、むしろ誠実な者として、また神からの者として、神の御前でキリストにあって神の言を語っているのです。</p> <p>b. それはまた利得のために敬虔を装うことでもあります。<u>Ⅰテモ6:5</u> 思いの中で腐敗し、真理を失い、敬虔を利得の手段と思いつけている者たちの間に、絶え間のない論争が生じるのです。</p>
	<p>5. 使徒たちは人からの栄誉を求めませんでした： <u>Ⅰテサ2:6</u> 私たちはキリストの使徒として、権威を行使することができたのですが、人からの栄誉を、あなたがたからも他の人からも、求めることはしませんでした。</p>	<p>a. 人からの栄誉を求めることは、あらゆるキリストの働き人にとって真の誘惑です。多くの人がこの事柄によって食い尽くされ、駄目にされてきました。</p> <p>b. ルシファーは栄誉を求めたために、神の内敵、サタンになりました。人からの栄誉を求める者はすべて、サタンに従う者です。<u>エゼ28:17</u> あなたの心は自分の美しさのゆえに持ち上げられ、あなたは自分の輝きのために知恵を腐敗させた。私はあなたを地に投げ、王たちの前に置いて、彼らがあなたをさらしものにした。</p> <p>c. どれだけ私たちが主によって用いられるか、どれだけ長く私たちの有用性が続くかは、私たちが人からの栄誉を求めるかどうかにかかっています。<u>ヨハネ7:17</u> だれでも彼のみこころを決意して行なおうとするなら、その教えについて、それが神からのものか、私が自分から語っているのかを知るであろう。 <u>Ⅱコリ4:5</u> というのは、私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、キリスト・イエスを主と宣べ伝え、また、私たち自身がイエスのためのあなたがたの奴隷であることを宣べ伝えるからです。</p>
	<p>6. 使徒たちはキリストの使徒として、自分の権威や威厳を行使しませんでした：</p>	<p>a. クリスマンの働きにおいて権威、威厳、権利を主張することは、その働きを破壊します。主イエスは地上にいたとき、ご自分の威厳を放棄しました。使徒も自分の権利を用いようとしませんでした。 <u>Ⅰコリ9:12</u> もし他の人があなたがたに対して、この権利にあずかっているとしたら、私たちはなおさらそうではありませんか？しかし、私たちはこの権利を用いませんでした。かえって、キリストの福音に、少しの妨げにもならないようにと、すべての事柄を耐え忍んでいます。</p> <p>b. 私たちはこの模範に従うなら、キリストのからだの中の致命的な病原菌を、すなわち地位を求める病原菌を殺すでしょう。 <u>マタイ20:28</u> それは、人の子が来たのも、仕えられるためではなく、仕えるためであって、多くの人の贖いの代価として自分の命を与えるためであるのと同じである。</p>
	<p>7. 使徒たちは、養う母が自分の子供たちをはぐくみ、慕わしく思うように、信者たちをはぐくみ、慕わしく思いました：<u>Ⅰテサ2:7</u> むしろ、私たちはあなたがたの間で、養う母が自分の子供たちをはぐくむように優しくしました。8 このように、あなたがたを慕わしく思っていたので、私たちはあなたがたに、神の福音だけでなく、自分の命までも、大いに喜んで分け与えようとしたのです。それは、あなたがたが私たちにとって愛する者となったからです。9 兄弟たちよ、あなたがたは、私たちの労苦と辛苦を覚えていましょう。私たちは、あなたがたのだれにも重荷を負わせないようにと、夜も昼も働きながら、あなたがたに神の福音を宣べ伝えたのでした。</p>	<p>a. 人々をはぐくむとは、人々を幸いにし、人々を慰め、またあなたが彼らにとって喜ばしく、あらゆる事において、あらゆる点において容易にあなたと接触することができる彼らに感じさせることです。</p> <p>b. 私たちの天然の人性において人々をはぐくむことは、真のものではありません。私たちは、魅了する要因としての、復活の実際としての主の臨在をもって、人々をはぐくまなければなりません。</p> <p>c. はぐくむことは、養うことを含んでいます。人々を養うことは、三つの時期の満ち満ちた務めにおけるすべてを含むキリストをもって彼らを養うことです。</p>
	<p>8. 使徒たちは神の福音をテサロニケ人に分け与えただけではありませんでした。彼らは自分自身の命(魂)も分け与えました：</p>	<p>a. 清くて正しい生活をし、初信者たちに、自分の魂までも与えることによって彼ら愛することが、福音を彼らに注入するための必要条件です。</p> <p>b. パウロは、自分の持っているものだけでなく、自分自身、自分の存在そのものも、聖徒たちのために喜んで費やしました。 <u>Ⅱコリ12:15</u> しかし、私はあなたがたの魂のために、大いに喜んで費やし、自分自身を使い尽くしましょう。私はあなたがたを、あふれるばかりに愛すれば愛するほど、ますます愛されなくなるのでしょうか？</p>
	<p>9. 使徒たちは自分自身を父親と考えました。そして信者たちに、神にふさわしく歩き、自分たちを神の王国に入らせる、また神の栄光の中にもたらず歩みを持つようにと勧めました：</p>	<p>a. 信者たちは偶像礼拝者として、サタンの王国の中にいました。</p> <p>b. 今や、彼らはキリストの中での救いを通して召されました。彼らはまた神の王国の中へと信じました。神の王国は、彼らが神聖な支配の下で、神の栄光の中へと入るという望みをもって、神を礼拝し享受することができる領域です。</p>

経験:①新人を牧養するために、正しい人となり、模範となることを学ぶ

私たちは、物事を正しく行なうことを学ぶ以上に、正しい人になることを学ばなければなりません。事が正しくなされても、人が正しくなければ無意味です。…人として、あなたであることを越えて、神に仕えることはできません。ハドソン・テーラーは「連合と交流(Union and Communion)」という本の中で、私たちが何であるかは、私たちが何を行なうか以上に重要であると言っています。この言葉は、私に深い印象を残しました。私たちは、兄弟姉妹をどのように正しく助けるかを知るべきです。

神が顧みられることは、あなたが神に触れられたかどうかです。…もしあなたが短気のことでも対処されたなら、他の人の短気のことでも助けることができます。もしあなたが服装のことでも対処されているなら、他の人の服装のことでも助けることができます。召会は、この世の社会ではありません。召会はからだです。からだは命の事柄です。

私たちの態度は、すべての人は弱い、自分は弱くないというものであるかもしれませんが。私たちは、自分は強い者であるという感覚を持っているかもしれませんが。コリント人への第一の手紙第9章22節でパウロは言いました、「弱い人には弱くなりました。弱い人を得るためです」。これは、私たちが弱い人の水準にまで下りて来るべきであることを意味します。病んでいる人に対しては、病んでいる人の水準にまで下りて行きます。これが、訪問することによって人を牧養する方法です。パウロはまた、「だれかがつまずいているのに、私自身が燃えないでおれましようか?」と言いました(Ⅱコリント11:29)。これは、すべての墮落した人のつまずきの原因に対して、悲しみと憤りで燃えることです。これは、神の群れを顧みられる良い牧者としてのパウロの模範を見せています。

テサロニケ人への第一の手紙第2章1節から12節は、私たちが新しい信者たちに対する模範として、どのように振る舞うべきかを見せています。正しい模範となるために、私たちは動機において、特に金銭に関して純粋である必要があります。これらの節に書かれていることの多くは金銭、どん欲、むさぼりに関してです。もし私たちが金銭について純粋でないなら、もしそれについて誠実、正直、信実でないなら、神の言葉を売り物にしたり、それに混ぜ物をしたりする人たちの中にもいるかもしれません。さらに、この動機が私たちにへつらいの言葉を使わせ、むさぼりのための口実をもうけさせるかもしれません。このすべては厳粛な事柄です。ですから、私たちが若い聖徒たちに対して正しい模範であろうとするなら、私たちのむさぼりは対処され、また金銭の事柄は私たちの足の下になければなりません。私たちは決してへつらいの言葉を語るべきではなく、決してどんな口実をもうけるべきではなく、決して自分自身の栄誉を求めべきではありません。さらに、私たちは人を喜ばせようとするのではなく、最善を尽くして神を喜ばせるべきです。そうすれば他の信者たちは良い模範を持って従うでしょう。

在職青年編

在職青年であるあなたは、仕事の技能を学ぶだけでなく、正しい人であることを学んでください。単に技能を学ぶだけではあなたは決して成功しないでしょう。ある人は技能や能力において傑出していますが、性格が不安定で人との信頼関係を構築することが難しいです。普段は特に大きな問題はなさそうでも、何か困難や問題が起こると直ちに不安定になり、孤立しがちになります。これは人の内側の深いところに、高ぶり、個人主義、金銭愛、貪欲、むさぼりなどがあり、それらが対処されていないので、その人自身を食い尽くしてしまっているからです。主にある在職青年として、あなたは会社においても、召会の奉仕においても、正しい人であることを学んでください。迷ったときに、このことは義を実行することかどうかを自分自身に尋ねる必要があります。義を実行することが困難を伴っても、義を実行せず不義を実行するなら、そのことをあなたの周りの人は知るようになり、あなたを決して心から尊敬しないでしょう。あなたは主の中で、主と共に、主のために(In the Lord, with the Lord, for the Lord)、正しいことを語り、正しいことを実行し、神を畏れ、神を喜ばせるとい志を持ってください。このためにあなたはあなたの内側の消極的なものを告白することを通して対処する必要があります。アーメン!

経験:②養う母のように愛情込めて、新人を優しくはぐくむ

Ⅰテサロニケ2:7 むしろ、私たちはあなたがたの間で、養う母が自分の子供たちをはぐくむように優しくしました。

8 このように、あなたがたを慕わしく思っていたので、私たちはあなたがたに、神の福音だけでなく、自分の命までも、大いに喜んで分け与えようとしたのです。それは、あなたがたが私たちにとって愛する者となったからです。

パウロは兄弟でしたが、自分自身を養う母と考えました。確かに、彼には地位、威厳、権威という考えはありませんでした。養う母であるという考えは、威厳や地位の考えと大いに異なっています。養う母に何の地位があるでしょうか? 何の階級、威厳、権威が彼女にあるでしょうか? 彼女の威厳は自分の子供たちを養いはぐくみ、優しく顧みることにあるのです。

「はぐくむ」という言葉は愛らしく、極度に優しい言葉です。パウロは自分自身を単に仕える者だけでなく、はぐくむ者と考えました。彼は決して信者たちを統制しませんでした。また単に彼らに仕えただけでもありません。そうではなく、彼は彼らをはぐくんだのです。彼らに対する彼の心遣いは優しさに満ちていました。

8節の「慕わしく思う」という言葉は、養う母が自分の養いはぐくむ子供に、愛情を込めて心を配るように、愛情を込めて好むこと、愛情を込めて熱望することを示します。これは、使徒たちが新しい信者たちに行なったことでした。

中高生編:

あなたは若い中高生であっても、新人(救われたばかりの人、弱くなった人、福音友人、キリスト教で追い求めている人、最近引越してきた人)を牧養する負担を持ってください。あなたは自分が弱いのでそんなことをする余裕がないと考えてはいけません。あなたは弱いかもかもしれませんが、あなたよりもっと弱い人がいます。あなたは成績が上がらず困っているかもしれませんが、あなたよりもっと勉強のことで行き詰っている人がいます。

上記に示した五種類の新人のために、まず祈ってください。LINEによる祈りのグループを形成し、毎日新人のために1分間祈り合ってください。その後、祈りのサポートの下で、一对一の牧養を実施してください。この牧養についてもLINEを用いて、毎日短く養いはぐくみの言葉を送ってください。短いメッセージであれば彼らは毎日読み、それを楽しみにするようになるでしょう。ここでの要点は、短い言葉であることと、毎日送ることです。短くなければ新人はそれを読みませんし、私たちもそれを実行することが困難になります。また基本的に毎日でなければいつ新人に試みが来て彼らが弱くなってしまふことが起こるか分からないので、実際的な供給とサポートになることができません。

これらの牧養の実行において以下のことが重要です:

- a) 主との個人的で、愛情に満ちた、親密な交わりを通して、主の愛に触れ、主を熱烈に愛する

詩歌 169:

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. イエスはわが命、なが愛のゆえ | 2. いかに愛すべきか、われ知らねど |
| ひと日に千回、御名をさ一げばん | 火のごとき愛は、心燃やす |
| (復)イエス、最愛の主に比ぶるものなし | 6. この愛、なににも 制限を受けじ; |
| なれの笑顔見て、われ喜ばん | 主のあまき価値は きのうにまざる |

- b) 主を愛し、主から新人を養う委託を受ける
- c) 神の愛をもって新人を愛し、養う母親のように新人を優しくはぐくみ、養う
- d) 決して権威を振りかざさず、はぐくむ母親のように振る舞う
- e) 多く教えるのではなく、模範となる必要があると認識し、良い模範になるため内側の消極的なものを対処する

ヨハネ 9 章のマイルストーン: 宗教の中の盲人の必要—命の視力と命の牧養

By 神大 BSG OB/OG

ヨハネ 9:1 さて、イエスは道を通っておられるとき、生まれつきの盲人を見られた。2 弟子たちは彼に尋ねて言った、「ラビ、この人が盲人に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか？ 彼ですか、それとも彼の両親ですか？」。3 イエスは答えられた、「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもない。彼がそのように生まれついたのは、神のわざが彼において現れるためである。5 私は世にいる間、世の光である」。6 こう言って、地につばきをして、そのつばきで泥を作り、その泥を彼の目に塗って、7 彼に言われた、「行って、シロアム(『遣わされた』を意味する)の池で洗いなさい」。そこで、彼は行って洗い、見えるようになって、戻って来た。8 近所の人たちや、以前、彼が乞食であるのを見ていた人たちは、「これは、座って物乞いをしてきた者ではないか？」と言った。9 ある者は、「これはその人だ」と言った。他の者は、「そうではない。彼に似ているだけだ」と言った。彼は、「私がその本人です」と言った。10 そこで人々は彼に、「それでは、おまえの目はどのようにして開いたのか？」と言った。11 彼は答えた、「イエスという人が、泥を作って私の目に塗り、『シロアムの池に行き洗いなさい』と言いました。それで、行って洗うと、見えるようになったのです」。12 人々は彼に、「その人はどこにいるか？」と言った。彼は「知りません」と言った。13 彼らはかつて盲人であった人々を、パリサイ人の所へ連れて行った。

35 イエスは彼らがその人を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた、「あなたは神の子の中へと信じるか？」。36 彼は答えて言った、「主よ、それはどなたですか？ その方の中へと信じるのができますように」。37 イエスは彼に言われた、「あなたは彼を見た。あなたと話をしているのが、その人である」。38 彼は「主よ、信じます」と言って、イエスを礼拝した。

盲目は、罪と死の問題です。死んでいる人は、確かに盲目です。「この時代の神(サタン)は…信じない者たちの思いをくらしめてしまい」。ですから彼らは、「キリストの栄光の福音の輝き」が彼らを照らして(Ⅲ コリント 4:4)、「彼らの目を開き、彼らを暗やみから光へ、サタンの権威から神に立ち返らせる」必要があります(使徒 26:18)。

弟子たちはイエスに尋ねて言いました、「ラビ、この人が盲人に生まれついたのは、だれが罪を犯したからですか？ 彼ですか、それとも彼の両親ですか？」。この質問は、Yes か No かの事柄であって、知識の木に属し、その結果は死です(創 2:17)。しかし3節での主の答えは、彼らに主ご自身、すなわち命の木であることを示し、その結果は命です(創 2:9)。

創世記 2 章で人が創造された後、人の前に知識の木と命の木がありました。弟子たちは、その盲人が生まれながら盲人であるのは本人が罪を犯したからか、それとも両親が罪を犯したからと考えました。彼らは主に A か B かを答えるように求めました。ところが主は A と B とも答えず、彼らを神に連れ戻しました。

学生生活の中で、あなたが人、事、物に直面し、対応に迫られる状況に適用してみましょう。ときに、あなたには二つの選択があります。例えばあなたの就職活動で二つの会社から内定をいただいたとします。あなたがただ単にそれぞれの会社の情報(給料、会社の規模、福利厚生など)に従って選択するならば、それは知識に従った決定となります。これらの情報は、必要なのですが、選択においてあなたは命である主ご自身に行き、祈りの中で主と交わり、内側の命と平安の感覚に従って決定してください。就職の後の結婚相手の選択についても同様です。神は全知全能で、将来何が起こり、何があなたが義と祝福の道を歩むことを助け、何があなたを神と神の祝福から逸らしてしまうのかをご存知です。ですから命である神から得られる内側の命の感覚は、外側だけの知識の感覚よりも優先されるべきです。

兄弟の証言: 私は大阪で中小規模の会社で働いていた時、大阪の大手の会社と神戸の小さな会社からオファーをいただきました。大阪の大手の会社を紹介して下さった人は、この絶好の機会を逃すと二度と大手の会社に行く機会はないでしょうと言って、大手の会社を選択するように勧めてくれました。しかし私が妻である姉妹と共に主の前に来て、祈りの中で神戸の小さな会社

について考慮したとき、内側に明るさ、熱い、喜びを感じました。結局その感覚に従って、神戸の会社に行くことにしました。その小さな会社には 3 年弱しかいませんでしたが、そこで経験した失敗も成功も、その後のために大きな助けとなりました。その後、日本の大手の会社よりもはるかに大きなグローバルカンパニーに転職して、さらに大きな機会を得ることができました。

盲目であるとは、暗闇の中にいることです。あなたの目の視力はいいかもしれませんが、心の目が盲目になっているかもしれません。あなたは自分がどこから来てどこへ行くとしているのかわかりません。あるいは自分のことを真実に顧みてくれる人を煩わしく思い、離れていく、または離れるべき人に付いていくことがないでしょうか。これはあなたが盲目であることを示しています。

主は世の光であると宣言されました。そして地につばきをして、そのつばきで泥を作り、その泥を彼の目に塗りました(軟膏のように塗りました)。ここでの地の土は人性を示しており、つばきは主の口から出るものとして、霊であり命である主の言葉を象徴します。主がつばきで泥を作ることは、人性とその霊である主の生ける言葉との混ざり合いを象徴します。あなたは御言葉を聞いた後、その御言葉を用いて次のように祈ってください、「主イエスよ、あなたは生まれつき盲目の人を愛し、私は世の光であると言われました。そして地につばきをして、そのつばきで泥を作り、その泥を彼の目に塗りました。つばきと土の混ざり合いは、私の人性と主の言葉の混ざり合いを象徴します。心を主に開き、霊を活用して主の言葉を受け入れます。私の人性とあなたの霊が混ざり合ってください。アーメン」。

泥を目に塗られた(原文は油塗られた)後、あなたは主の言葉に従順に従い、シロアムの池で洗わなければなりません。シロアムとは「遣わされた」を意味します。いったんあなたが主を信じ、主の御言葉を受け入れるならば、主はあなたに池へ行くように遣わされます。あなたは池に行き、泥を洗い落とすことが求められています。これは、バプテスマの水で私たちの古い人性を洗い去ることを象徴します。こういうわけで主は言われます、「信じてバプテスマされる者は救われる(マルコ 16:16)」。「まことに、まことに、私はあなたに言う。人は水と霊から生まれなければ、神の王国に入ることはできない(ヨハネ 3:5)」。主を信じ受け入れた人は誰でもバプテスマされ、バプテスマの水によって洗われるべきです。

まとめると、次のようになります：

- ① 第一番目に、土である人は主の口から出るつばきを受け入れ、それと混ざりあわされる
- ② 第二番目に、土とつばきからできた泥によってあなたの心の目が塗られる、または油塗られる
- ③ 最後に古い自己をバプテスマの水によって葬られ、洗われる
- ④ クリスマスは毎日、古い人が水で洗われることを適用すべきである(私たちの体が毎日シャワーを浴びる必要があるように、私たちの内なる存在も毎日霊的に洗われる必要がある)
- ⑤ その結果、あなたは視力を得、光の中になる
- ⑥ 主の救いである命の視力を得るために、知識に従ってではなく、主の御言葉と主との交わりから来る命の感覚に従順に従う
- ⑦ 宗教(ユダヤ教、パリサイ人)とは、神を形式的にあるいは知識にしたがって礼拝することである。宗教は決して人の盲目をいやすことはできない。宗教は形式的に神を礼拝することを要求するが、命としての神との交わりを要求しない

E993 (Japanese 675)

- | | |
|---|--|
| 1. O how sweet the glorious message, Simple faith may claim;
Yesterday, today, forever, Jesus is the same.
Still He loves to save the sinful, Heal the sick and lame;
Cheer the mourner, still the tempest; Glory to His name! | 2. He who was the friend of sinners,
Seeks thee, lost one, now;
Sinner, come, and at His footstool,
Penitently bow.
He who said, "I'll not condemn thee,
Go and sin no more,"
Speaks to thee that word of pardon,
As in days of yore. |
| (C) Yesterday, today, forever, Jesus is the same,
All may change, but Jesus never! Glory to His name,
Glory to His name, Glory to His name;
All may change, but Jesus never! Glory to His name. | |